

(仮称) 新M I C E施設整備基本計画  
【概要版】

平成30年(2018年)5月  
札幌市

**(仮称) 新M I C E施設整備基本計画**  
**【概要版】**

**目 次**

第1章 計画の目的、位置付け等	1
第2章 現状・課題	1
第3章 M I C E施策の方向性	3
第4章 整備場所の検討	4
第5章 施設のコンセプト等	6
第6章 施設計画	6
第7章 事業計画	9

# 第1章 計画の目的、位置付け等

## 1 計画の目的及び位置付け

### <目的>

(仮称)新MICE施設整備基本計画は、MICE※1の現状や課題等を踏まえ、新たなMICE施設(以下「新MICE施設」という。)の必要性などを整理し、新MICE施設の整備や運営に関する基本的な事項を定めます。

### <位置付け>



## 第2章 現状・課題

### 1 MICEの現状

- 国際会議の開催件数や参加者総数は世界・日本国内ともに概ね増加傾向。特に、3,000～10,000人規模の会議開催件数が大きく伸びています。
- 国内他都市では、グローバルMICE都市※2が国際会議の開催件数・人数ともに上位を占めており、各都市において、更なる施設整備など、MICE施策を推進しています。

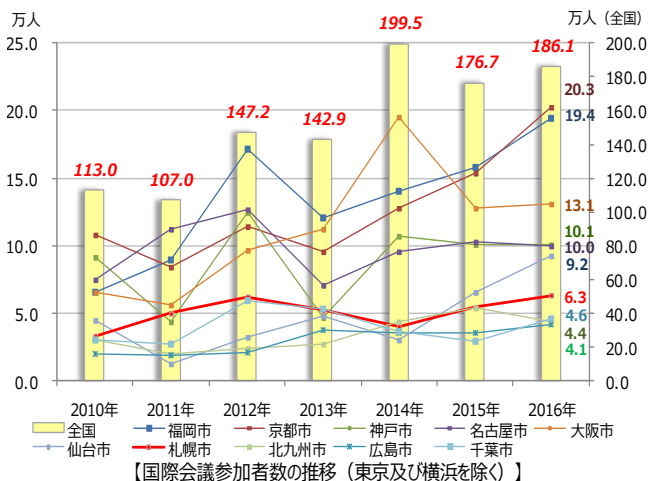
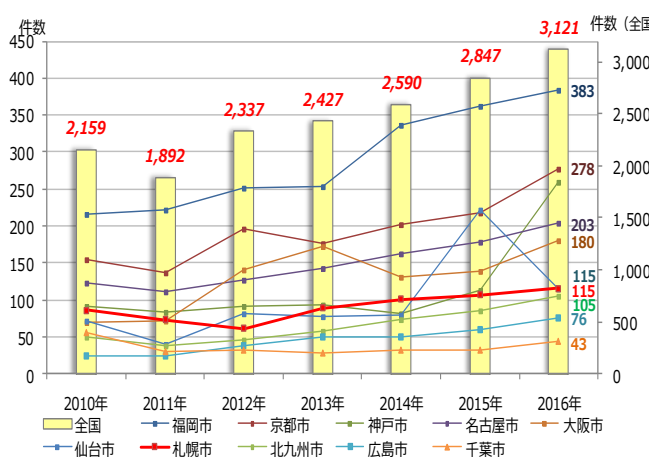
【グローバルMICE都市の国際会議開催件数の推移】 【グローバルMICE都市の国際会議参加者総数の推移】

(暦年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016年の順位
東京※3	491	470	500	531	543	557	574	1位
福岡	216	221	252	253	336	363	383	2位
京都	155	137	196	176	202	218	278	3位
神戸	91	83	92	93	82	113	260	4位
名古屋	122	112	126	143	163	178	203	5位
横浜	174	169	191	226	200	190	189	6位
大阪	69	72	140	172	130	139	180	7位
仙台	72	40	81	77	80	221	115	8位
札幌	86	73	61	89	101	107	115	8位
北九州	49	38	45	57	73	86	105	10位
広島	25	24	37	50	50	59	76	12位
千葉	56	30	32	28	31	31	43	14位

(単位：件)

(暦年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016年の順位
横浜	16.5	16.0	22.6	22.9	58.3	27.9	31.2	1位
東京	18.7	25.2	21.4	29.9	34.0	33.5	30.2	2位
京都	10.8	8.4	11.4	9.6	12.8	15.4	20.3	3位
福岡	6.5	8.9	17.1	12.0	14.0	15.8	19.4	4位
大阪	6.5	5.6	9.7	11.2	19.5	12.8	13.1	5位
神戸	9.1	4.3	12.5	4.7	10.7	10.1	10.1	6位
名古屋	7.5	11.2	12.7	7.1	9.6	10.3	10.0	7位
仙台	4.5	1.2	3.2	4.8	3.0	6.5	9.2	8位
札幌	3.3	5.0	6.2	5.2	4.0	5.4	6.3	9位
千葉	3.0	2.7	5.9	5.3	3.6	2.9	4.6	10位
北九州	3.0	2.0	2.4	2.7	4.4	5.4	4.4	11位
広島	2.0	1.9	2.1	3.7	3.5	3.5	4.1	12位

(単位：万人)



→ 全体  
→ 札幌

(JNTO統計※4に基づき作成)

## 2 札幌市のMICE誘致推進における現状と課題

### 現状

#### 〈国際会議〉

- ・開催件数や参加者総数は年々増加傾向であるものの、その伸びは他のグローバルMICE都市よりやや低くなっています。

#### 〈インセンティブツアー〉

- ・札幌国際プラザ・コンベンションビューローが支援した件数は増加傾向となっています。

#### 〈MICE関連施設〉

- ・大規模な国際会議等を単独で開催できる施設がなく、これまで、札幌での大規模なMICE開催を担ってきた西11丁目駅周辺地区において一定の機能を担っていた、さっぽろ芸術文化の館が閉館予定です。
- ・札幌コンベンションセンターはホールと展示場が併設されておらず、また、宿泊施設も近接していません。

### 課題解決に向けた基本的考え方

都市の規模・魅力度やキーパーソン<sup>※5</sup>を有する大学の立地など、MICE誘致・開催に有利となる条件は優れているものの、展示場とメインホールが併設されたMICE施設が無いことや、MICE施設と宿泊施設の近接性が劣ることなどにより、国内の国際会議開催上位都市と比較し、大規模な国際会議の件数や開催割合が大きく劣っている状況

国際会議参加者数を増加させるためには、増加傾向にある大規模な会議をより一層誘致していくことが効果的。そのため、他都市と比べて、札幌市が劣っているハード面の環境改善を図ることが重要

**大規模な国際会議等の誘致・開催が可能な、  
市場ニーズを捉えたより魅力的なMICE施設が必要**

- ※1 **MICE** 多くの集客が見込めるビジネスイベントなどの総称で、Meeting（企業内会議）、Incentive travel/tour（報奨旅行）、Convention（国際会議・学術会議）、Event/Exhibition（イベント/展示会）の頭文字をとった造語。
- ※2 **グローバルMICE都市** 国際的なMICE誘致競争が激化する中、海外競合国・都市との激しい誘致競争に打ち勝ち、我が国のMICE誘致競争を牽引することができる実力ある都市を育成するため、平成25年に7都市（東京都、横浜市、名古屋市・愛知県、京都市、大阪府・大阪市、神戸市、福岡市）と平成27年に5都市（札幌市、仙台市、千葉県千葉市、広島市、北九州市）の計12都市を選定し、国から支援を行うとともに、各地域の関係者の連携を強化し、都市の自律的な取組を促す制度。
- ※3 **東京** この計画では、東京都のうち、東京23区のことを指す。
- ※4 **JNTO統計** ①国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体が主催し、②参加者総数が50名以上で、③日本を含む3か国以上が参加し、④開催期間が1日以上での会議の統計。
- ※5 **キーパーソン** 学会等の団体において会議の開催地決定にあたっての決定権を持つ人物。

## 第3章 MICE施策の方向性

### 1 積極的誘致戦略と基盤の強化戦略

現状及び課題を踏まえ、「札幌MICE総合戦略（2015～2019）」に基づく取組の方向性を以下のとおり整理します。

#### ■ 重点誘致ターゲット及び基盤の強化戦略について

	内容	今後の方向性
重点誘致ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国内及びアジアをターゲットとした学術系の大規模会議</li> <li>○ 主に東アジア・東南アジアからのインセンティブツアー</li> <li>○ 国内外に向けたPR効果の高い政府系国際会議</li> <li>○ さっぽろの特色を生かしたスポーツ関連の会議・大会・イベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 継続して、取組を推進</li> <li>○ その他のMICEについては、国の取組との整合も図りながら、適宜検討</li> </ul>
基盤の強化戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 誘致・開催支援体制の強化</li> <li>○ MICE施設整備とゾーン形成の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ さっぽろ芸術文化の館閉館後の対応策を実施</li> <li>○ 更なる強化を図るため、新MICE施設を整備</li> </ul>

#### ■ 施策の推進に向けて

##### 〈大学との連携〉

キーパーソンが集積する大学との連携強化の推進が重要です。

##### 〈周辺自治体との連携〉

周辺自治体との連携により、札幌圏、さらには北海道全体の魅力を活かしたMICEの展開を図るとともに、地域全体の発展に寄与していきます。

### 2 MICE誘致の目標等

#### ◆ 目標：国際会議参加者総数について、東京、横浜を除いた国内トップレベル

〈成果指標〉		2016年度	2026年度
施設単体	国際会議参加者総数	—	7.6万人
札幌市 全体	国際会議参加者総数	6.3万人	16.5万人
	国際会議開催件数	115件	241件
	インセンティブツアー誘致・支援件数	78件	100件

### 3 将来予測や戦略等を踏まえた施設整備の考え方等

#### 〈新MICE施設の考え方〉

- ・大規模な国際会議等が開催できる施設規模
- ・メインホール、会議室、展示場、宿泊機能が一体（又は近接）となった施設
- ・アクセス性や、飲食・アフターコンベンション等の利便性が高い、都心部に立地 など

#### 施設のターゲット

- 特に増加傾向にある、3,000～10,000人規模の国際会議
- そのうち、5,000人規模までの開催の割合が多いため、施設単体で5,000人規模、周辺施設と連携し10,000人規模の国際会議
- 増加傾向にあり、経済波及効果が高いインセンティブツアーのレセプション など
- ✓ 施設の稼働率確保のため、興行等にも対応できる施設とします。

## 4 施設規模の検討と望ましい規模

### 検討方法

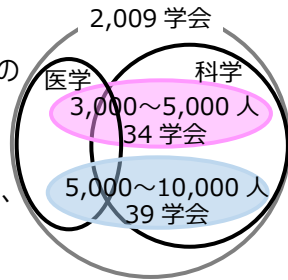
日本学術会議に登録されている 2,009 学会のうち、ターゲットに合致する学会（全 73 学会）を対象とし、開催実績調査及び主催者等へのヒアリング調査を実施しました。

#### 開催実績調査

実際に使用した施設や部屋の規模等を把握

#### ヒアリング調査

開催実績調査結果をもとに、ヒアリング調査により、最低限必要とされる規模等を特定し、望ましい規模を導出



### 望ましい規模

室名	面積[m <sup>2</sup> ]	室数	天井高さ
メインホール	2,000 m <sup>2</sup> 程度	1 室	10.0m 以上
中会議室	計 2,400 m <sup>2</sup> 程度	4 室以上	3.5~5.5m 程度
小会議室	計 2,700 m <sup>2</sup> 程度	11 室以上	
展示場	4,000 m <sup>2</sup> 程度	1 室	10.0m 以上

## 第 4 章 整備場所の検討

### 1 比較検討する整備候補地

#### <西 11 丁目駅周辺地区>

（場所：中央区北 1 条西 12 丁目（市有地））

現在立地しているさっぽろ芸術文化の館は、2,300 席を有する固定席のホールをはじめ、宿泊施設や会議室などで構成されており、この施設と周辺ホテル等を連携させて、特に大規模な M I C E が開催されてきましたが、老朽化等により、平成 30 年 9 月に閉館する予定となっています。

当該地は、これまで担ってきた大規模 M I C E 開催の実績・知名度や周辺施設と連携するノウハウの蓄積などを踏まえ、整備候補地の一つとします。

#### <中島公園駅周辺地区>

（場所：中央区南 10 条西 3 丁目（民有地））

民有地であり、現在は札幌パークホテルが立地しています。

札幌パークホテルは、1,000 m<sup>2</sup>を超える宴会場や中小の宴会場などを有する札幌市内では老舗のホテルです。

平成 28 年 1 月に、札幌パークホテルを所有する「(株)グランビスタ ホテル&リゾート」及び「(株)サンケイビル」（以下パークホテル）よりホテル建替えと M I C E 施設の一体整備の提案がありました。

当該地は、民間事業者からの提案を踏まえ、交通アクセスや宿泊・飲食機能などの周辺環境が優れていると考えられることから、整備候補地の一つとします。



## 2 整備場所の決定

	西 11 丁目駅周辺地区	中島公園駅周辺地区
まちづくり の観点	○ 第 2 次都心まちづくり計画では、集客交流機能の向上が指針として示されている	○ 第 2 次都心まちづくり計画では、都市観光・交流の場の強化が指針として示されている
		○ まちづくりに関する周辺整備を行う場合、パークホテルの按分負担による実施が可能
施設整備 要件	△ M I C E 開催に必要な機能を施設単体で整備する必要がある	○ 札幌市が必要とする機能の一部をホテル棟側で担うことが可能
	△ 隣接施設との連携による相乗効果の可能性はある	○ ホテルとの一体整備による利便性の向上や相乗効果等が見込まれる
エリア 環境	△ 周辺の宿泊機能：1,571 室	○ 周辺の宿泊機能：3,540 室
	△ 観光客に人気があり、札幌の都心部を代表するスポットである大通公園に近接しているが、周辺を官公庁やマンション等に囲まれている	○ 緑豊かで外国人観光客に人気である中島公園の隣に位置し、札幌の美しい自然環境を体感することができるとともに、一部整備が可能で、更なる魅力向上が見込める
施設運営		○ 合築によるスケールメリットにより、維持費が低減できる可能性があるほか、催事の誘致等に当たり、パークホテル等による協力等が期待できる
	○ 単独整備であるため、大規模修繕や用途転用などに柔軟に対応できる	× 合築のため、大規模修繕や用途転用などに調整が必要
交通 アクセス	× 地下鉄さっぽろ駅からは、乗換が必要	○ 地下鉄さっぽろ駅からの乗換は不要
	△ 西 11 丁目駅から徒歩 5 分だが、屋外移動が必要	○ 中島公園駅と地下接続が可能であり、その場合、新千歳空港から屋外移動が不要
コスト 比較	○ 想定事業費：約 270 億円	△ 想定事業費：約 280 億円
周辺開発 の可能性	△ 既に官公庁やマンション等が数多く立地しており、民間所有の未・低利用地が少ない	○ 民間所有の未・低利用地が多く、また新規ホテルの建設需要もあることから、今後の民間投資の誘発・促進が期待できるなど、すすきの地区のまちづくりに資する
供用時期	○ 最短で 2024 年度の供用開始	× 最短で 2025 年度の供用開始
利用者 意向	△ 過去の大規模 M I C E 開催実績を評価する意見があった一方、札幌駅及び最寄駅からのアクセスが不便である等の声が多い	○ ホール・展示場・会議室・ホテルの一体整備や地下直結の場合のアクセス性、中島公園隣接という立地に評価が集まった

- ✓ 西 11 丁目駅周辺地区は、想定事業費や供用開始時期については有利
- ✓ 一方、中島公園駅周辺地区は、アクセス性や周辺の宿泊機能の面に加え、新 M I C E 施設の整備を契機とした周辺の民間投資の促進の可能性も期待できること、さらには、共同事業による相乗効果が見込めるなど多数の点で有利であることを評価

**「中島公園駅周辺地区」を新 M I C E 施設の整備場所とします**

## 第5章 施設のコンセプト等

### 1 施設のコンセプト

#### 「自然×人×知」が織りなす札幌MICE — 新しいアイデアの出発地 —

- ◆ 新MICE施設は、札幌の大きな魅力である「自然」や豊富な「人」「知」が集まり、相乗効果を発揮し、人々の想像力や感性が引き立てられる空間です。
- ◆ 世界中から集まる人々の創造力を高め、発想やひらめきを促し、これまでにはない、ここ札幌だからこそ生まれる、札幌MICE発の新たな発見やアイデアが生まれる場を目指します。

### 2 施設の整備方針

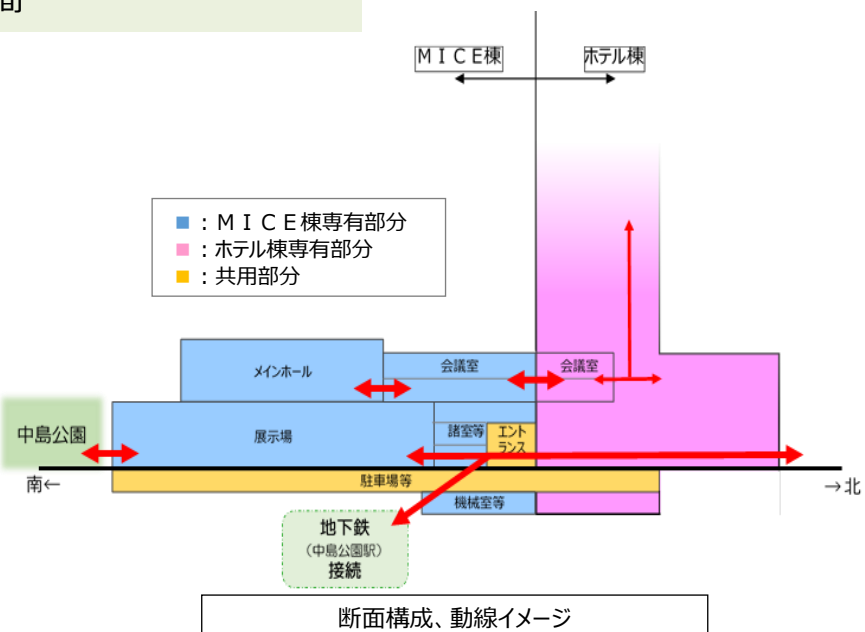
- 札幌のMICE誘致・開催を先導する、必要な機能を備えた施設
- 政府系国際会議等にも対応できる、質の高い施設
- 札幌駅前通南端の拠点的交流空間の中核として、周辺のまちづくりを先導する役割を担うほか、にぎわいを創出するなど、拠点性の向上に資する施設
- 中島公園との一体性・連続性や、藻岩山への眺望など、周辺環境を生かした施設
- 地下鉄駅へのアクセス性の向上や魅力的な雰囲気や気軽に憩えることなど、公園利用者や地域住民等の利便性の向上に資する施設
- 災害等の発生に備えた、地域の防災に資する施設

## 第6章 施設計画

### 1 配置計画

敷地南側：新MICE施設（以下「MICE棟」；低層）  
敷地北側：建替後のパークホテル（以下「ホテル棟」；高層）  
接続部：共用部となるエントランス空間

- ✓ 中島公園への圧迫感の軽減や中島公園と施設の一体性を考慮した配置
- ✓ メインホールや展示場のホワイエ空間などから、藻岩山や中島公園のみどりへの眺望を確保
- ✓ 札幌駅前通や地下鉄中島公園駅、豊水通からのアプローチに配慮し、施設利用者の周辺への回遊性向上や、地域住民の地下鉄中島公園駅へのアクセス向上を図る





## 2 諸室整備計画

### ■ 施設全体の規模や主な諸室の規模

【 専有面積 】 25,500 m<sup>2</sup>  
 【 共用部面積 】 19,400 m<sup>2</sup>

### ■ 諸室の機能や仕様等

#### メインホール

- ・無柱空間で平土間形式
- ・移動間仕切り等を設置し多様な使い方に対応
- ・ホテル棟の会議室等と同フロア

#### 展示場

- ・十分な床荷重を確保した無柱の大空間
- ・地上 1 階に配置しスムーズな搬出入が可能
- ・興行等の開催も想定した機能を整備

#### 諸会議室

- ・移動間仕切りで分割し、様々な規模の利用に対応
- ✓ 会議室はホテル棟とM I C E棟を合わせて、望ましい規模を確保

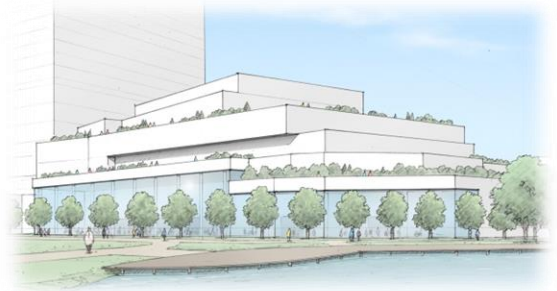
#### ホワイエ

- ・メインホールや展示場、会議室の利用の際に十分な溜まりの空間を配置

【主な諸室の規模等】

	室名	面積(m <sup>2</sup> )	室数
ホール	メインホール	約 2,000	1 室
	ホワイエ	約 700	
展示場	展示場	約 4,000	1 室
	ホワイエ	約 1,000	
会議室	中会議室	約 800	2 室程度
	小会議室	約 1,200	5 室程度
	ホワイエ	約 700	

\* 現時点で必要な諸室であり、今後、設計等や共同事業の協議等を進め、詳細な検討を行います。  
 \* その他、地下鉄駅接続、公園の一部整備も行います。  
 \* 避難場所とすることとし、必要な諸室等の詳細を今後、検討します。



<施設イメージ>

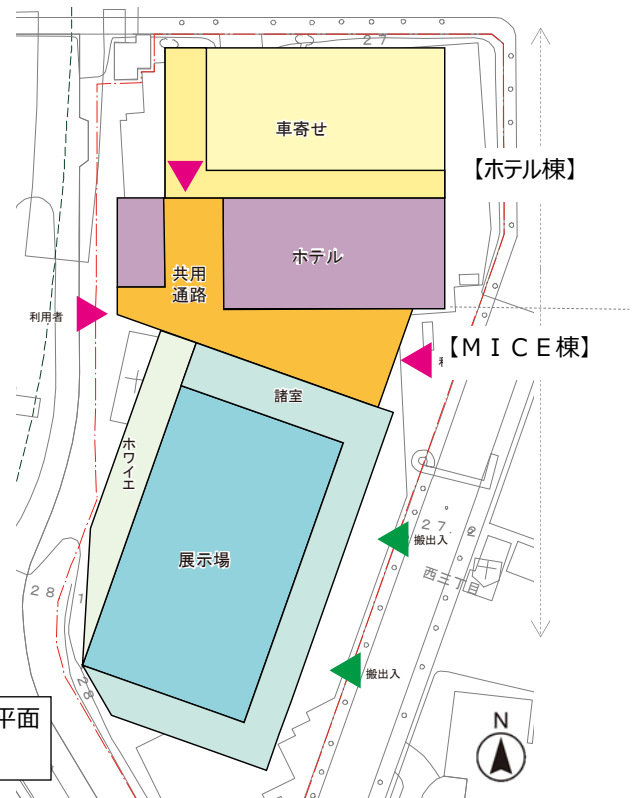
## 3 平面計画イメージ

### エントランス

- ・回遊性を確保し、アプローチしやすい計画とするため、出入口を施設の西側、北側、東側に設置
- 〈西側〉公園利用者のアクセス
- 〈北側〉札幌駅前通からのアクセス
- 〈東側〉豊水通側からのアクセス

### 展示場

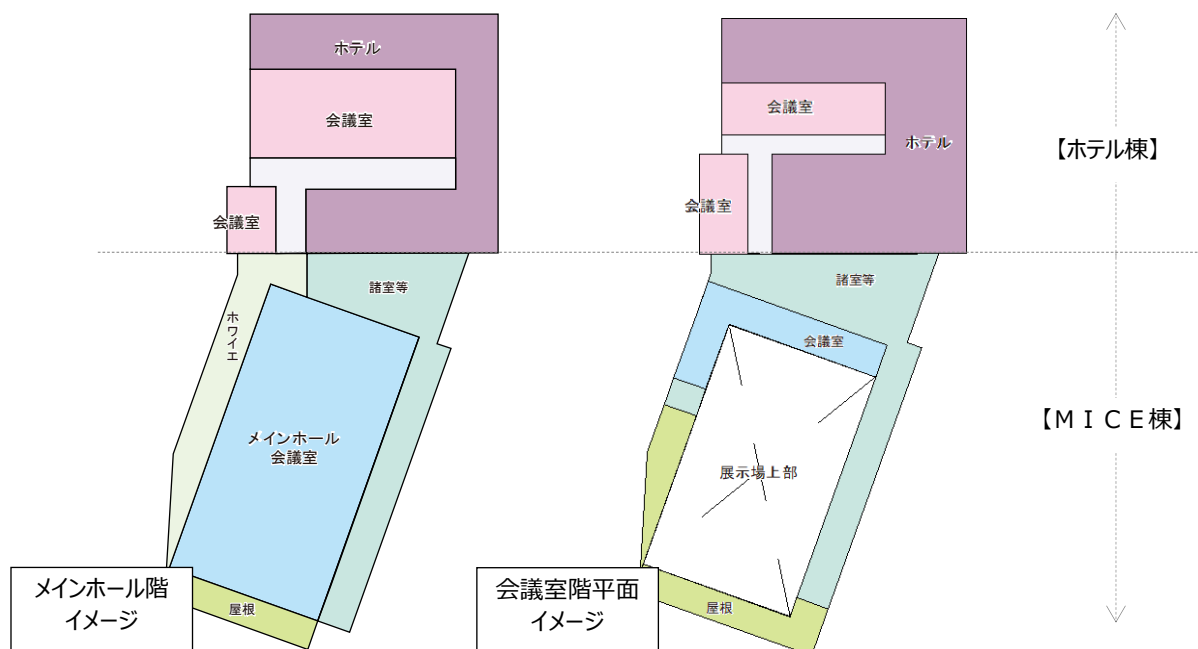
- ・ホワイエを中島公園側に配置し、公園への眺望を確保するとともに、公園に直接出入りできる出入口を複数配置することにより、施設と公園を一体的に利用でき、賑わいを創出できる計画
- ・豊水通に面する東側に直接搬出入できる動線を確保



1 階配置、平面イメージ

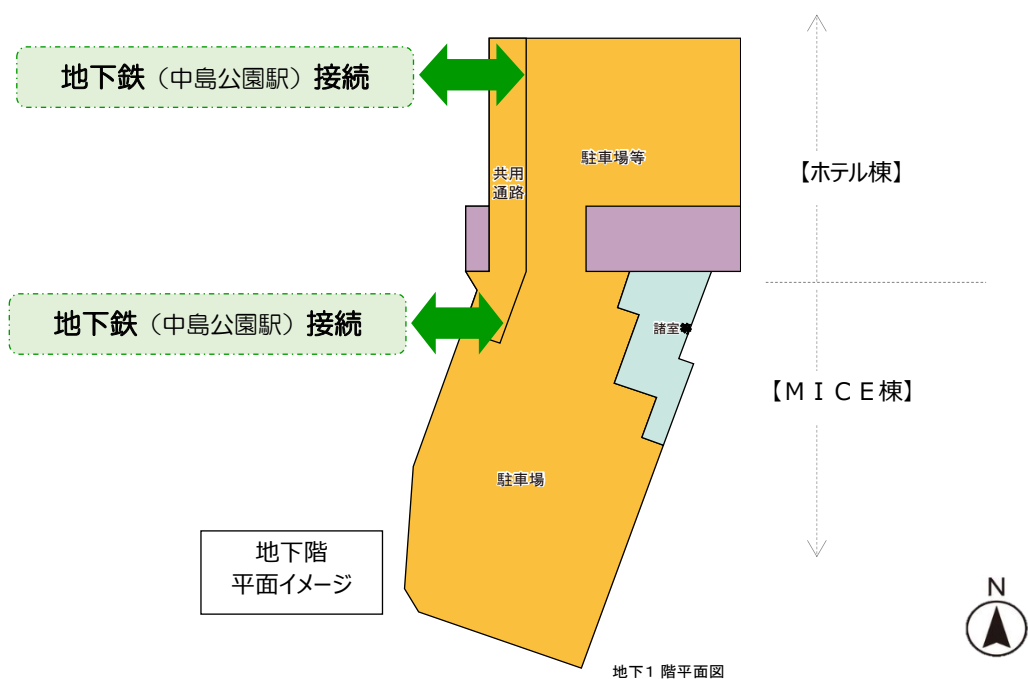
## メインホール・会議室

- ・メインホールは展示場の上階に配置し、その上下階に会議室をまとめて配置することにより、各会議室間の移動に配慮
- ・ホテル棟の会議室と同じフロアに設けることで相互利用に配慮



## 地下階

- ・駐車場（共用部）を設けるとともに、中島公園駅と接続した共用通路を設け、地下鉄駅から風雨・降雪にあらずにアクセスできる動線を確保
- ・駐車場についてはMICEの主催者・出演者に必要な駐車台数を確保
- ・スムーズな搬出入に配慮した荷捌きスペースを配置



## 第7章 事業計画

### 1 事業手法の検討及び概算事業費

#### <事業手法の検討>

##### ○ 整備手法

整備場所の地権者であるパークホテルから、再開発事業を前提とした事業提案があったところです。当該整備場所は市有地ではないため、事業手法の決定にあたっては、土地所有者との合意が必要であることから、当該提案を踏まえ、整備した建築物の内、M I C E 棟の床に該当する分の費用を支払うことで、新M I C E 施設を取得することとします。

##### ○ 運営手法の検討

「指定管理者制度<sup>※6</sup>」又は、「公共施設等運営権制度（コンセッション）<sup>※7</sup>」を想定し、今後「PPP/PFI<sup>※8</sup> 導入可能性調査」により詳細検討を行ったうえで決定します。

【指定管理者制度とコンセッションの比較】

	指定管理者制度	コンセッション
根拠法	地方自治法	P F I 法
対象	地方自治法上の公の施設 (国の施設は適用対象外 所有権の帰属は必須ではない)	所有権を有するP F I 法に定める公共施設等のうち利用料金を徴収するもの (庁舎や留置場、道路、河川等の利用料金を徴収しないものは対象外)
抵当権の設定	抵当権の設定は想定されていない	運営権は物件であり、抵当権の設定が可能
地位の移転	不可 (指定管理者の指定の取り消しと新たな指定が必要)	可能 (ただし、条例に特別の定めがある場合は議会の承認を要する)
利用料金の収受	事業者の収入とすることが可能	
利用料金の設定	地方公共団体の承認が必要	公共施設等の管理者等への届出が必要
費用の徴収	利用料金が経費を上回る場合など、利益の一部を市に納付する仕組みを採用することが可能	事業期間当初に民間企業からの初期投資（運営権対価の支払い）が行われる
使用許可	指定管理者が行うことが可能	公共施設等運営権者が行うことはできない (行わせようとする場合、指定管理者制度との併用が必要)

#### <整備事業費>

概算総事業費：約 280 億円

- \* 当該事業費は、現時点での概算額であり、今後、設計等を受け、変更になる可能性があります。
- \* 興行等に必要なる防音機能の整備費を含みます。
- \* その他、什器・備品等の費用が発生する可能性があります。

※6 **指定管理者制度** 公の施設において、民間事業者等を指定管理者として指定し、当該民間事業者等が利用料金の収受や施設の仕様許可等までを含めて、包括的に施設を管理・運営する制度。

※7 **公共施設等運営権制度（コンセッション）** PFI 法で定められる権利制度。所有権を有する公共施設等の運営権を民間事業者等に設定し、料金設定等を含めた当該施設の運営等を担わせる制度。

※8 **PPP/PFI** PPP (Public Private Partnership) は、公共施設の整備等において、民間の創意工夫等を活用する官民の連携によって、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るものであり、官民連携全般を指し、PFI (Private Finance Initiative) は、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金、経営力及び技術力を活用し、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を行うものであり、PPP の一類型。

## 2 事業スケジュール（予定）

(年度)								
2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
PFI導入可能性調査(運営)	管理・運営計画	運営事業者選定		開設準備・予約受付等				供用開始
基本・実施設計再開発手続き等		建設工事						

## 3 市内他施設の利用状況と棲み分け

- 新MICE施設の主なターゲット（下表「\*」部分）は、競合する市内他施設がないものと考えられるため、市内他施設に影響を与えることなく、催事開催が可能です。

＜新MICE施設の主なターゲット＞

- 3,000～10,000人規模の学会等
- 2,000～4,000人規模のイベント
- 1,000～3,000人規模のインセンティブツアーのレセプション等

- 主なターゲット以外（右表網掛け部分）については、現在、市内各施設の稼働率が7～9割と高い率で推移していることに加え、各催事の需要も、2026年頃には1～2割程度増加しているものと予測されることから、立地や利用料金の差、車利用の有無などの要素も踏まえ、棲み分けがなされるものと考えられます。

### 【新MICE施設の需要イメージ】

新施設の主なターゲットであり、大規模・機能の面で市内他施設では開催できない（難しい）もの	他施設でも可能な規模だが、高稼働率のため申し込みを受けられず、機会損失が生じているもの
--	---



新MICE施設で開催！

	1,000名	2,000名	3,000名	4,000名	5,000名	10,000名
<b>M</b> ミーティング他 企業の社内会議やセミナー、説明会、研修会等	1,000名	2,000名	3,000名	4,000名	5,000名	10,000名
	<div style="background-color: #d9ead3; padding: 5px;">                     市内ホテル等                      東札幌エリア（コンベンションセンター、産業振興センター）                 </div>					
<b>I</b> インセンティブ 企業等のインセンティブツアーのレセプション等	1,000名	2,000名	3,000名	4,000名	5,000名	10,000名
	<div style="background-color: #d9ead3; padding: 5px;">                     市内ホテル、郊外のホテル等                      新MICE施設*                 </div>					
<b>C</b> 学会・総会・大会 学会 学会ポスターセッション 学会併催展示会 総会・大会	1,000名	2,000名	3,000名	4,000名	5,000名	10,000名
	<div style="background-color: #d9ead3; padding: 5px;">                     北大                      東札幌エリア（コンベンションセンター、産業振興センター）                      市内ホテル等                      東札幌エリア                      市内ホテル等                      東札幌エリア（コンベンションセンター、産業振興センター）                      市内ホテル等                      新MICE施設*                 </div>					
<b>E</b> 展示会 総合展示会見本市 業界展示会・見本市 企業販促展示会 一般招待即売会 フリーマーケット	1,000m	2,000m	3,000m	4,000m	5,000m	8,000m
	<div style="background-color: #d9ead3; padding: 5px;">                     市内展示会場、アリーナ等                      ・札幌ドーム（約14,500m<sup>2</sup>）                      ・つどむ（札幌市スポーツ交流施設） 約11,500m<sup>2</sup>                      ・アクセスサッポロ（札幌流通総合会館） 5,000m<sup>2</sup>                      ・きたえる（北海道立総合体育センター） 約4,000m<sup>2</sup> </div>					
<b>E</b> イベント クラシックコンサート等 舞台芸術、演劇、ポップス、演歌、伝統芸能等 スポーツ大会、イベント（屋内）	1,000名	2,000名	3,000名	4,000名	5,000名	10,000名
	<div style="background-color: #d9ead3; padding: 5px;">                     札幌コンサートホール                      札幌市民交流プラザ                      市民ホール                      札幌教育文化会館                      新MICE施設*                      市内展示会場、アリーナ等                      ・札幌ドーム 約14,500m<sup>2</sup>                      ・つどむ（札幌市スポーツ交流施設） 約11,500m<sup>2</sup>                      ・きたえる（北海道立総合体育センター） 約4,000m<sup>2</sup> </div>					

【規模・用途による市内施設の棲み分け】

## 4 施設開業後の需要予測と想定稼働率

●メインホール：81.3% ●展示場：64.8% ●中小会議室：64.0%

<需要予測及び想定稼働率算定の考え方について（概要）>

- ホール・展示場
  - ・施設の主なターゲット（市内他施設と競合しない規模、用途）を新たなニーズ分として、新M I C E施設で開催します。
  - ・施設の主なターゲット以外（市内他施設と競合する規模、用途）は、今後需要が増加する分の一部を新M I C E施設で開催するものと見込みます。
- 中小の会議室
  - ・今後増加が見込まれる需要を新M I C E施設で開催するものと見込みます。

## 5 ランニングコスト

収入（百万円/年）	支出（百万円/年）	差引（百万円/年）
762	674	88

<利用料金設定の考え方>

札幌コンベンションセンターと価格面での棲み分けを行うことを念頭に、国内他都市のM I C E施設の利用料金を参考として仮設定しました。なお、利用料金の設定は施設の運営検討を行う際に詳細な検討を行うこととします。

<支出予測>

札幌コンベンションセンターの実績をベースに、新M I C E施設特有の条件（大空間が多いなど）を加味し、算出しています。

## 6 経済波及効果

成果指標を達成した場合の経済波及効果について、「M I C E経済波及効果測定モデル（国土交通省観光庁、平成26年3月）」を用いて推計した結果は、下表のとおりです。

※全市の（ ）内は、対2016年増加数

		生産誘発額（億円）	雇用誘発効果（人日）	税収効果（億円）
全市	コンベンション	168.0 (+83.5)	377,445 (+232,775)	1.9 (+1.0)
	インセンティブツアー	57.5 (+22.3)	168,415 (+65,313)	0.6 (+0.2)
	合計	<b>225.5 (+105.8)</b>	<b>545,860 (+298,088)</b>	<b>2.5 (+1.2)</b>
うち 新施設分	コンベンション	86.0	193,959	0.9
	インセンティブツアー	15.1	44,164	0.2
	合計	<b>101.1</b>	<b>238,123</b>	<b>1.1</b>